

## BMC 海外派遣報告

高分子科学専攻 井上研究室 D1 信川省吾

派遣場所：Monterey Conference Center, Monterey, California, US

会議名：The XVth International Congress on Rheology

派遣期間：August 3 - 10, 2008

私は BMC プログラムを利用し、2008 年 8 月 3 日から 9 日の 1 週間、アメリカのモントレイで開催された The XVth International Congress on Rheology に参加しました。この国際会議はアメリカの Society of Rheology が主催しており、世界中のレオロジー分野の研究者が集まります。会自体は 15 回目ですが、私は今回が初参加でした。また、レオロジーは企業でも盛んに研究されている分野であり、企業の参加も多く見られました。

初日にはオープニングレセプションがあり、そこで日本から参加している他の大学の人や、以前に他の国際会議で会った韓国・中国の学生と会話しながら食事をしました。口頭発表は二日目から始まり、どの日でも朝の 8 時から夕方の 5 時ごろまで行われました。当然ながら発表は全て英語なので、普段あまり英語を聞く機会がない私にとっては内容の半分も理解できないことに苦しみました。しかしながら、自分と関連分野のセッションで他の国で行われている研究内容を少しでも知る事ができたことは、今後の研究において大変有意義であったと思います。

私は三日目の夕方からポスター発表を行いました。発表時間は 3 時間と普通の学会よりも長かったですが、自分の英語が中々伝わらなかったり、相手の話を理解するのに時間が掛かったため、3 時間はあっという間に過ぎました。また発表は食事をしながらというスタイルで私にとっては初めての経験でしたが、発表者は食事しにくいのでほとんど食事ができなかったことが残念でした。

モントレイは日本と変わらない緯度にあるのですが、近海を流れる海流の影響で年間を通して気温の変化が少なくほぼ 10 から 20 くらいで、とても過ごしやすい町でした。ただ日本と同じ服装で行くと、夏は寒い思いをします。

二日目のレセプションでモントレイの水族館に行ったり、四日目・水曜日の午後からは会議はなく、空いた時間でサイクリングに出かけました。モントレイは海岸沿いの町で、古くからの自然環境が維持されており、とても素晴らしい景色を眺めることができました。途中で立ち寄った町の人との会話も有意義でした。

このようにほぼ毎日、夕方からは何かしらの催しがあり、毎日が充実していたと思います。今回の渡航では自分の英語力の無さを痛感し、これから努力する必要があることが分かりました。もう少し英語ができれば、もっと突っ込んだディスカッションができたように思います。もし機会があれば次回も参加したいと考えています。

最後になりましたが、今回の国際会議への参加に関してサポートしていただいた BMC プログラムの皆様、The XVth ICR の関係の方々に深く感謝します。また、期間中に現地でお世話になった先生方、学生の皆様に感謝します。

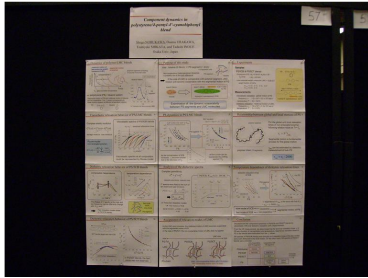


図 1 発表のポスター・ディスカッション前



図 2 モントレーの自然の風景



図 3 フィッシャーマンズワーフ